

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	ののほな		
○保護者評価実施期間	2026年 3月 1日		～ 2026年 3月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	2026年 3月 1日		～ 2026年 3月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	当事業所では、児童指導員や保育士に加え、作業療法士・言語聴覚士・看護師等の専門職が在籍しており、それぞれの専門性を活かしながら連携した支援を行っています。子どもの発達特性や個々の課題に応じて、多角的な視点から支援を組み立てることが可能であり、行動面・言語面・生活面を総合的に捉えた支援を実施しています。このような体制により、より効果的かつ継続性のある支援の提供が可能となっています。	定期的なミーティングを実施し、専門職を含めた多職種での意見交換を行うことで、子ども一人ひとりの状況や課題を多角的に把握しています。各職員の専門的な視点や日々の気づきを共有することで、支援方針の精度を高めるとともに、柔軟かつ適切な支援内容の検討を行っています。また、支援の方向性をチーム全体で共有することで、統一性のある支援の実現に努めています。	専門的支援実施計画については、継続的な見直しを行い、子ども一人ひとりの状況や変化に応じた柔軟な更新を進めています。今後は、より個別性の高い支援内容へと発展させることで、専門職の強みを最大限に活かしながら、支援の質のさらなる向上を図っていきます。
2	保護者との連携を支援の重要な柱と位置づけ、日々の活動内容や子どもの様子、成長の変化について丁寧かつ具体的に共有しています。提供記録の充実を図めることで、家庭と事業所が同じ視点で子どもの成長を支えることができる体制を構築しており、保護者が安心して子どもを預けられる環境づくりに繋がっています。	活動の様子については、文章だけでなく写真を用いた情報提供を行うことで、保護者が子どもの日々の様子をより具体的にイメージできるよう工夫しています。また、日常的なやり取りや個別面談の機会を通じて、家庭での関わり方や子どもへの対応についての助言も行い、家庭と事業所が連携した支援の実現を目指しています。	法人内の他事業所の取り組みや支援事例を積極的に共有し、効果的な保護者支援の方法を取り入れていきます。また、保護者がより主体的に支援に関わることができるような情報提供や関わりの機会の充実を図り、連携の質のさらなる向上を目指しています。（バンドアプリなどでLIVE配信などの仕組みを検討）
3	当事業所では、ICTツールや専用システムを活用し、職員間で日常的かつ継続的に情報共有を行う体制を整えています。支援内容や子どもの様子、日々の変化をタイムリーに共有することで、職員ごとの対応のばらつきを防ぎ、チームとして一貫性のある支援の提供を実現しています。また、情報の蓄積により、継続的な支援の質の向上にも繋がっています。	日々の支援内容や気づき、留意点については、ICTツールを活用しその都度記録・共有を行っています。加えて、文章だけでなく写真を活用することで、子どもの活動や様子をより具体的に視覚的に把握できるよう工夫しています。これにより、職員間だけでなく保護者に対しても、支援内容を分かりやすく伝えることが可能となっています。また、時間や場所にとらわれない情報共有を実現し、業務効率の向上にも寄与しています。	今後はICTの活用をさらに推進し、保護者への情報提供の質と量の両面での向上を図るとともに、支援内容の「見える化」をより一層強化していきます。具体的には、情報の整理・体系化を進めることで、保護者が日々の支援をより深く理解できる環境を整備し、家庭との連携強化に繋げていくことを目指しています。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別面談や日常的なやり取りを通じた家庭支援は実施しているものの、体系的な家族支援プログラムの整備や実施については十分とは言えない状況があります。	これまでは個別対応を中心とした支援を重視していたため、ベアレント・トレーニング等の体系的な支援プログラムの導入や整備が後回しとなっていたことが要因と考えられます。	外部講師による研修や勉強会の実施等を通じて、家族支援に関する知識や技術の向上を図るとともに、体系的な家族支援プログラムの導入を進めていきます。
2	支援終了後に送迎業務が重なることにより、職員間での振り返りや情報共有の時間を十分に確保することが難しい場合があります。	送迎業務を含めた業務構造上、支援後にまとまった時間を確保することが難しく、振り返りの時間が十分に確保できない状況が生じています。	ICTツールを活用し、短時間でも効果的かつ質の高い振り返りや情報共有が行える仕組みを構築し、業務負担を抑えながら支援の質の向上を図っていきます。
3	職員間の情報共有については一定の仕組みは整っているものの、さらなる効率化や運用の最適化の余地があると認識しています。	複数の情報共有ツールや手段を併用していることにより、情報の整理や活用面で非効率が生じている可能性があります。	情報共有手段の整理・統一を進め、職員が必要な情報に迅速にアクセスできる環境を整えることで、業務効率の向上と支援の質の安定化を図っていきます。（スラッグのトークルームの利用を検討）